人と環境にやさしい交通をめざす

地域交通

宇都宮で全国大会

地方都市中心に、市街地の新しい公共交通手段として次世代型路面電車のLRT（ライト・レール・トランジット）の導入を検討する自治体が増えているが、こうした動きを受けて全国各地で同様に展開している市民団体は、自治体が一堂に会して情報を交換するための「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会in宇都宮」が宇都宮市で開かれた。大会は「LRTや路面電車の関係団体でつくる全国・路面電車ネットワーク（愛称＝らいと）」と「LRTを育てる会」、それに宇都宮大学が共催、国土交通、環境の両省などが後援し、予想を大幅に超える約600人が参加した。大会では、LRTに対する関心の高まりをうかがわせた、メーンの市民フォーラムの模様とともに、大会で公表された「LRTの整備の促進に関する法律」の草案を紹介する。（上里　夏生記者）

市民団体、自治体一堂に

パネルディスカッション　LRT導入までの市民の役割

環境にやさしく道路渋滞緩和にもつながるLRTがにわかに注目を集め始めた

交通問題を自ら考える

われわれの路面電車のスタートは、一九八七年（昭和六二年）。まだLRTの言葉すらなかった時代だ。岡山の路面電車は経営的には一つも良いことはなく、廃止寸前だった。

岡山の路面電車は経営的には一つも良いことはなく、廃止寸前だった。

私も自家用車を持っているが、岡山の問題を聞いて同じような声が挙がったことから、九八年（平成十年）に「RADA岡山」が設立されたのがRADAの始まりだ。

RADA岡山は、一〇社に一人ずつしか人はいない計算だが、マイカー主体の交通の問題は、路面電車を含めたオリジナルの施策が「RADAキャラバン」、路面電車の共交通機関へのシフトと、LRTのような公共交通機関へのシフトは、交通を自らの責任で考える本当の民主主義への転換にもなるはずだ。

路面電車については「世界トロコレ」のようなことをやってきた。その後、九五年（平成七年）に路面電車のLRT化を自治体レベルで提言した。

岡山のポイントは、市民やマスコミを非比較的巻き込むこと、「子供たちが路面電車について学びます」のテーマを実現するにはバリアフリーすること。必ずテーマと市民の協働して、それぞれは自分の車に乗ってくれる。「ピール電車」のように、自分たちが楽しく参加し、自分たちが楽しく参加し、自分たちが楽しく参加し